

部会名	相談・くらしの部会	報告回	令和4年度第2回全体会
委員 氏名	氏名	選出母体及び役職等	
	1	◎原 郷史	地域生活支援センターふらっと センター長
	2	○松林 宏	J P S 訪問介護ステーション 管理者
	3	吉田 真介	地域生活支援センタープラザ 施設長
	4	高橋 美佳	地域生活支援センターあけぼの 所長
	5	玉上 博康	ワークショップさかえ 施設長
	6	椛島 剛之	障害当事者
	7	大原 博文	府中市パーキンソン病友の会 会長
	8	西浦 智恵	知的障害者相談員
	9	荒畑 正子	府中市精神障害者を守る家族会 理事
	10	田中 研二	府中市社会福祉協議会 地域福祉部地域活動推進課 長補佐兼権利擁護課長補佐
※部会長は◎、副部会長は○			
現状	<p>○昨年度内容を検討してきた障害のある方のための防災ハンドブックが完成し配布が始まった。</p> <p>○第7期自立支援協議会において整備手法及び必要な機能について答申した府中市における地域生活支援拠点等については、整備の進行状況や実際の運用状況を引き続き自立支援協議会において把握・検証していく必要がある。</p> <p>○自立支援協議会は地域課題の抽出及び解決に向けて協議される場として機能していく必要がある。またその機能をより高めていく必要がある。</p>		
検討 テーマ (概 要)	<p>○介護人材不足の実態の調査方法の検討並びに調査の実施</p> <p>○地域生活支援拠点等の整備の進行状況と実際の運用状況の把握・検証</p> <p>○地域課題の抽出</p>		
取組 経過	<p>【令和4年度の取組】</p> <p>○介護人材不足は、それ自体が大きな地域課題の一つである。また、地域生活支援拠点等が果たすべき役割の一つに「専門的人材の育成機能」があるが、どのように人材が不足しているのか実態を把握しなければ人材育成の量的な目標や質的な方向性を設定できない。このような問題意識から、まずは介護人材不足の実態を調査する手法を検討し、実際に調査し、調査結果を分析した上で府中市における量と質両面での介護人材不足の実態を浮き彫りにするとともに、調査結果を踏まえて府中市における介護人材不足の解消への道筋の提言を目指す。</p> <p>○地域生活支援拠点等の整備の進行状況と実際の運用状況の把握・検証については、引き続き当協議会において進めていく。</p> <p>○地域課題の抽出については、相談支援専門員が行う個別支援会議や特定相談支援機関連絡会で行う事例検討等を通じて、運営会議に地域課題が集約する流れが定着しつつある。また、昨年度実施された「これからの府中市の障害者福</p>		

	<p>祉における支援体制のありかたを考える懇話会」においても様々な地域課題が参加者から提示された。各委員が把握している地域課題を直接協議会に提示することも昨年度と同様に行われていく予定。</p>
<p>検討結果</p>	<p>1 介護人材不足の実態の調査方法の検討並びに調査の実施について</p> <p>(1) 市内訪問系サービス事業所に対する、介護人材不足の実態調査アンケートの実施</p> <p>当専門部会として、府中市内の訪問系サービス事業所全 51 事業所に対し、令和 4 年 8 月 5 日にアンケートを送付し、30 事業所より回答が寄せられた。</p> <p>新型コロナウイルス感染症第 7 波到来最中の極めて多忙な中での 6 割近い高い回答率自体からも、各事業所が介護人材の確保に苦悩し解決を願っている実情が垣間見える。</p> <p>(2) アンケート結果の分析</p> <p>アンケートの質問内容及び回答結果については参考資料を参照されたい。</p> <p>当専門部会として暫定的にアンケート結果の分析を簡易に行い、以下のような傾向が見て取れた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性職員、非正規職員、高齢職員への依存度が他産業と比較して顕著に高い。 ・平日昼間の時間帯は人員に余裕があるが、土日、早朝夜間深夜帯に稼働できる人員は少ない。 ・管理者やサービス提供責任者としての業務を行うための時間が十分に取れていない事業所は 2/3 になり、その理由は押しなべて人員不足のため管理者やサービス提供責任者がサービス提供にあたらなければならないためである。 ・新規依頼を過去 1 年間に断ったことがある事業所は 100%であった。その理由としてあげられた中で最も多かったのは全般的な人員不足であったが、ヘルパーを派遣できる時間帯と希望の時間帯が合わない、医療的ケアを実施できるヘルパーがいない、派遣するヘルパーに特定の性別の属性が求められる場合に該当するヘルパーがいない、等のより詳細な記載もみられた。 ・ヘルパー不足の解消のための取り組みを各事業所が行っているが、その効果が感じられないとする事業所が多数である。効果があっても費用が多額にかかるとの回答もあった。 <p>(3) ヒアリングについて</p> <p>アンケート結果の分析も踏まえ、より踏み込んだ質問で事業所の人材不足の実情を明らかにするべくヒアリングを令和 4 年 10 月 6 日に実施する。</p>

ヒアリング対象の事業所として、多種類の訪問系サービスを提供している 10 程度の事業所を候補としてあげ参加の声掛けをしたところ、現時点で 6 事業所が参加表明している。

(4) 介護人材不足解消の施策の検討

アンケート・ヒアリングにより今後府中市における介護人材不足の実情が明らかになるであろうことが予想されるが、介護人材不足解消の施策の検討及び提言も当専門部会の責務として行っていきたい。

東京都において、府中市が行う障害福祉人材確保対策事業に対して補助をする仕組みがある。先進自治体の事例にも学びながら、府中市の介護人材不足の実情にみあった人材確保対策事業を検討、構築していく。

2 地域生活支援拠点等の整備状況と運用状況の把握・検証について

今年度の専門部会では、地域生活支援拠点等が果たすべき機能の一つである「専門的人材の確保・養成機能」を方向付ける基礎資料となる調査の実施に注力するが、適宜他の「相談機能」「緊急時の受け入れ・対応機能」「体験の機会・場の提供機能」「地域の体制づくり機能」における整備と運用の状況の把握・検証に努める。

3 地域課題の抽出について

地域課題の抽出については、相談支援専門員が個別支援会議を行う中で見えてきた地域課題や、特定相談支援機関連絡会で行われる事例検討、また、昨年度実施された自立支援協議会主催の懇話会や、自立支援協議会の専門部会で各委員から出される地域課題を運営会議に集約し、その課題の中から地域に存在する共通の課題を抽出する仕組みづくりは進んできているが、今後もより有効な抽出方法等を随時検討していく。

なお現況では運営会議では親亡きあとの問題、家族以外の地域資源とのつながりについて、市内の社会資源の充足について、等の地域課題が取り上げられている。

昨年度実施された「これからの府中市の障害者福祉における支援体制のありかたを考える懇話会」において様々な地域課題が参加者により提示され有意義であった。詳細は議事録を参照されたい。

また、抽出された地域課題の解決に向けて、自立支援協議会が具体的にどう動いていくのかについては、引き続き、今後の検討課題となっている。

会議開催状況と内容

	日程	内容
第 1 回	6 月 8 日	○介護人材不足の実態の調査方法の検討並びに調査の実施

		<p>○地域生活支援拠点等の整備の進行状況と実際の運用状況の把握・検証</p> <p>○地域課題の抽出</p>
第2回	7月15日	○介護人材不足の実態の調査方法の検討並びに調査の実施（アンケートでの質問項目の検討）
第3回	9月16日	○介護人材不足の実態の調査方法の検討並びに調査の実施（アンケート結果の分析、及びヒアリング項目の検討）
第4回	10月6日	○介護人材不足の実態の調査方法の検討並びに調査の実施（訪問系サービス事業所からのヒアリング）
第5回	未定	<p>○介護人材不足の実態の調査方法の検討並びに調査の実施（ヒアリング結果の分析、及び人材不足解消に資する効果的な施策の検討）</p> <p>○地域生活支援拠点等の整備の進行状況と実際の運用状況の把握・検証</p> <p>○地域課題の抽出</p>
第6回	未定	○相談・くらしの部会としての答申書内容の検討及び確定